

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町瀬戸口24
電話2-9772

新年にあたって

所長 谷口 彰



暖冬の中、穏やかな年明けとなりました。「年末年始休暇が一番ゆつくり出来る」という声を聞いたことがありません。それぞれに、しっかりと休養し心機一転新しい年を迎えられたことと思います。本年も隠岐教育事務所スタッフ一同よろしくお願ひいたします。

を伝えたいか自分ではつきりしないまま挨拶をしたことがよくあったと反省しています。

昨年参加したある発表会での主催者の挨拶は、大変分かり易い言葉を使われしました。そして、簡単な絵を用意されました。

さらに、話の内容は形式的なものではなく観衆の視点に立ったものでした。つまり、シンプルな言葉や表現の中に、幅と奥深さのある始まりの挨拶でした。そして、その内容の理解や感じ方はいいように思いました。そこには特別支援教育の視点があるように感じました。

新しい言葉を借りれば「ユニバーサルデザイン」ということでしょうか。人前で話をする時も、状況に応じてユニバーサルデザインを意識することが必要だと強く感じました。

また、特別支援教育が全ての教育の原点だと言われる理由が、この辺りにあるのではと再考する機会になりました。

▼随分前に、ある都道府県教委が「教員の指導力」の要素を示したことがあります。それは：

- ①子供を引き付ける力
- ②分かり易く説明する力の二点でした。若い頃私は、このことを意識して授業に取り組んだつもりです。実は、この二点も先程の挨拶に共通した点があるように思うのです。

学校では、これまで以上に授業改善が求められています。教育の目指すところは、時代の要請によつて刻々と変化するものがあります。指導力の基本が身につけて

初めて改善が可能になるはず。何事も、基礎基本がしっかりしてないと本物にならないことは言うまでもありません。

優良少年団体表彰

知夫村子ども「皆一踊りの歌舞伎」保存会

定期的、継続的な活動が他の範となり、明るく住みよい地域づくりに大きく貢献しているものを優良団体として島根県教育委員会教育長が表彰する団体に、知夫村子ども「皆一踊り・歌舞伎」保存会が選出されました。一月六日には島根県教育庁で表彰式が行われ、代表者の方々が県教育長より表彰状を手渡され、その後懇談会も開かれました。

この保存会の結成経緯や推薦理由等を紹介したいと思います。

【結成経緯】古くから知夫村に伝わる郷土芸能であるが、戦時中から高度経済成長期にかけて、若者の村外流出等を理由に、一度は途絶えた。

しかし、先人達の情熱により、昭和四十五年に郷土芸能保存会ができ、皆一踊りの青年後継者育成に努め、昭和

四十七年には奉納歌舞伎を復活させた。その後、後継者育成に苦慮する期間が続いたが、中学生への指導を通して村の郷土芸能への理解促進と後継者育成を図った。昭和五十五年に本保存会を結成し、以来三十六年間途切れることなく活動が続けられている。

【推薦理由】

○皆一踊り・子ども歌舞伎ともに村民の大きな期待に応えるため、夜間・休日の時間を活用し熱心に活動が続けていること。

○地域の育成団体による指導体制が確立しており、専門的な指導を受けられるため、技能が向上していること。

○子供達は、歴史ある村の伝統芸能を継承すること、奉納時の村民や指導者からの評価を通して、大きな達成感を感じていること。

○保存会の活動を行ったOBがUターンで就職し、現在若き指導者として、後輩の指導に当たっていること。等

